

(7)5月12日(月)平成15年(2003年)第三種郵便物認可

イル

望岳山荘

にて



中嶋 嶺雄

連休に入る直前、安曇野をドライブかたがた、ワサビ畑を抱かかたの穂高川の土手にある「早春賦」記念碑を訪れた。歌詞にあるような早春ではなく、桃や菜の花が咲く春たけなわであったが、車にヴァイオリンを積んでいたの

で、現地で「早春賦」を弾いてみた。記念碑が出来て二十年

周年とのことで、安曇野名物のオルゴールの塔が建ち、一人千円でガラスのプレートに名前が入るのだという。こうして記念碑一帯はやや観光化しているが、土手から眺める穂高川の風景はいつ見ても素晴らしく、有明山を真ん中に残雪の北アルプスが逆光に霞んでいた。

なぜ「早春賦」の記念碑の前でヴァイ

「早春賦」を弾く

オリンを弾いたのかと言うと、若干の理由がある。このところ毎年五月に東京でズキ・メソッドの子供たちによる「アンサンブル・フェスティバル」があって、第八回目の今年は国立オリンピック記念青少年総合センター大ホールで五月十一日(日)なのだ

のステージ・リハーサル、とパターンが決まっている。弦楽器のみ十二〜三名なのが、恒例化していて、声を掛けると全員が集まってくれる。これまでヴァイナルディの合奏協奏曲やモーツァルトのディヴェルティメントなど

を弾いたのだが、毎年このことで選曲がなかなか難しい。今年はヴァイナルディの「四季」(編曲版)から「春」を弾くことになり、割り当て時間が少し余るので、「早春賦」のこれも編曲版を加えておいた。そうしたらプログラム最後の十の合奏団三百名全員で演奏したいとフェスティバル委員

の指揮で会場の聴衆も歌えるように歌詞を用意するとい

わが家の練習のときには歌詞が一番しかわからなかったので、この曲をよく覚えていた満九十四歳の母に車椅子で参加してもらった。「早春賦」が大好きな台湾の李登輝前総統ご夫妻が金婚式に配られた、ローマ字による歌詞もコピーしておいた。たまたまその日に高知に住む私の教え子の母堂から来たお手紙には、いつか安曇野を訪れたいとあって、「早春賦」の安曇野を描いた記念切手が貼ってあった。「早春賦」の記念切手は平山郁夫画伯が京都の五重塔を書いたものだけかと思っていただけに、やはり嬉しかった。平山芸大学長とは時々お会いする機会もあるので、なぜ「早春賦」の切手に五重塔を描かれたのか、一度お聞きしてみようと思っている。

(国際社会学者)松本市出身)